

日 付 令和元年11月 12日(火)
担当所属 山梨県教育庁 学術文化財課
担当者名 尾形 哲哉
連絡先 055-223-1792 (内線:8515)
<http://www.pref.yamanashi.jp/gakujutu/bunkazaihogo/houdou.html>

登録有形文化財（建造物）の登録について

○令和元年11月15日（金）に開催される国の文化審議会（会長 きとうまこと 佐藤信氏）は、新たに133件を登録有形文化財（建造物）とするよう文部科学大臣に答申する予定です。なお、報道の解禁は次のとおりでお願いします。

報道解禁

- ・ラジオ、テレビ、インターネット
: 11月15日（金）17時以降
- ・新聞 : 11月16日（土）朝刊

※文部科学記者会に報道資料なげこみ（15日17時以降解禁のしほり付）

○山梨県内での登録有形文化財（建造物）は次の2件（詳細別紙）

おおむらけじゅうたくおもや
「大村家住宅主屋」（韮崎市神山町）

おおむらけじゅうたくどぞう
「大村家住宅土蔵」（韮崎市神山町）

- ・ 韮崎市神山町に所在する、農家住宅。神山町の近代農村景観を形づくる、重要な建築物である。
- ・ 2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智博士の生家。
- ・ 登録後は韮崎市初の国登録有形文化財（建造物）となる。

○この結果、官報告示を経て、本県の登録有形文化財（建造物）は、合計142件となる見込みである。

※文化財登録制度

届出制と指導・助言・勧告を基本とする緩やかな保護制度で、従来の指定制度を補完する制度として平成8年10月に創設された。

建築後50年を経過している建造物で、次の基準のいずれかにあてはまるものが登録有形文化財（建造物）の対象となる。

- 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
- 二 造形の規範となっているもの
- 三 再現することが容易でないもの

別紙

大村家住宅は、平成21年(2009)、22年(2010)に、他の神山町の民家とともに「歴史文化基本構想」のための調査が行われた地区を代表する大型農家である。

平成27年(2015)にノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智博士の生家であり、昭和60年(1985)頃から、現当主である大村智氏が研究室の学生やスタッフを集めてセミナーを開催する「蛍雪寮」として利用され、平成29年(2017)には「シェアハウス蛍雪寮」として活用された。現在は蕪崎市内の民間組織が蛍雪寮活用プロジェクトとしてワークショップや講座などを開催し、人材育成を目的にした活用が図られている。今後、官報告示により正式に登録されれば、蕪崎市初の国登録有形文化財(建造物)となる。

(答申された建築物1)

- 1 種別 建築物
- 2 名称 おおむらけじゅうたくおもや 大村家住宅主屋
- 3 所在地 山梨県蕪崎市神山町鍋山1880番地
- 4 所有者 個人
- 5 建築年代 明治40年頃/平成2年頃改修
- 6 登録基準 「(一)国土の歴史的景観に寄与しているもの」
- 7 特徴等

蕪崎市の釜無川右岸、神山町鍋山に建つ木造平屋建て切妻造^{きりづまづくり}棧瓦葺^{さんがわらぶき}屋根の農家。外装は、白漆喰。内部は東側に土間、西側に土間に沿って、板間が2室あり、その奥に6畳と8畳の和室が2室ずつ並んでいる。

平成21年(2009)、22年(2010)に「蕪崎市歴史文化基本構想等策定委員会」によって神山町の他の民家とともに調査が行われた地区を代表する近世農家住宅の伝統を受け継ぐ建物である。



主屋外観



主屋内観
(奥座敷)

(答申された建築物2)

- 1 種別 建築物
- 2 名称 おおむらけじゅうたくどぞう
大村家住宅土蔵
- 3 所在地 山梨県韮崎市神山町鍋山1880番地
- 4 所有者 個人
- 5 建築年代 大正5年頃／昭和30年代増築、昭和20年頃・平成2年頃改修
- 6 登録基準 「(一) 国土の歴史的景観に寄与しているもの」
- 7 特徴等

主屋の東側に建つ、きりつまづくりさんがわらぶき切妻造^{きりつまづくり}瓦葺^{わらぶき}屋根、平入の土蔵造の建物である。1階は、書庫、倉庫として使用されており、2階は西側に廊下を通され、8畳間が2室、4畳間が1室並んでいる。敷地東側の石垣上に建ち、主屋同様に農村地域の景観を構成している。家伝によると当初は、米倉であったが、戦時中疎開者を受け入れるために2階を座敷に改修したとされる。



土蔵外観



土蔵内観
(2階中央和室)